

令和6年度 事業報告

阿寒湖温泉における入込状況を見ると、域内の宿泊数においては約41万人となり、限りなく2024年は観光客も回復傾向にあります。

内訳をみると、台湾をはじめとした東アジア圏の皆様に加え、欧米豪からのお客様も散見され海外からのお客様が行きかう温泉街の風景が戻りつつあり、活気が出てきたところであります。

一方、国内の顧客の取り込みはオーバーツーリズム対策の一環として、ゴールデンルート中心の流れを地方訪問意欲をたきつけ、阿寒湖へ目を向ける対策が益々、重要となっております。

そうしたなか、本年度も観光庁事業が採択されました。

なかでも、富裕層に対する高付加価値事業（観光庁）においては、阿寒湖エリアの活性化について①ガストロノミーの観点を取り込んだ「魅力ある阿寒湖の食」の展開。②国設阿寒湖畔スキー場の展望台等の活用によるグリーンシーズンの活用。③フォレストガーデン構想における新たな活用の観点からの「ネイチャーセンター」計画の策定。これら3点を見据えた「阿寒湖活性化調査事業」高付加価値旅行者に対する宿・施設の水準に関する調査報告書を策定しました。

また、冬季間の集客に大変有効的であった、プロジェクションマッピング、冬華美、氷上のステージなどの製作により、冬季の3大イベントも大変効果的でありました。

スキー場事業におきましても本年も全国高校総体など10の大会を誘致し、選手の他にも大会関係者や合宿にも各種学校や団体にも参加いただき、大きな経済効果を生んだところであります。

また、釧路市観光振興臨時基金が150円に改定し持続可能な安定財源の確保の観点からも「宿泊税」や「宿泊施設が実施するふるさと納税」なども加えた、新たな仕組み作りなどの検討を重ねたところであります。

また、これからの阿寒湖温泉を担う若者世代が中心となり地熱エネルギー勉強会（SDGS推進部会）や国内、海外へのプロモーション活動などを精力的に実施してまいりました。